

第 5 回（仮称）富士宮市立郷土史博物館基本計画策定委員会

会議録

場所	令和 8 年 5 月 14 日（木） 14:00～16:00
日時	駅前交流センターきらら 集会室
出席者	<p>委員 ：小笠原委員（◎）、北垣委員（○）、大高委員、 渡井（正）委員、渡井（一）委員、芦澤委員、高橋委員、 諸星委員、井口委員 * 欠席：横山委員</p> <p>事務局 ：富士宮市教育委員会 佐野教育部長 富士宮市文化課 中野課長、渡邊係長、大場主査、保竹学芸員、 柿崎学芸員、原学芸員、三上学芸員</p> <p>オブザーバー：丹青社 大木、中尾、松村</p>

内 容

1. 開会

佐野教育部長

○設置場所をきらら駐車場に決定した。住民説明会を実施し、説明を行っていく。

2. 議事

（1）基本計画案

事務局

○基本計画案を章ごとに説明
建設場所、概算費用など含め基本計画を全体的に確認し、素案を作成する。素案についてももらった意見等に対する修正等は、次回委員会にて説明する。

事務局

* 「第 1 章 はじめに」を説明

意見なし

事務局

* 「第 2 章 基本理念」を説明

意見なし

事務局

* 「第 3 章 事業活動計画」を説明

意見なし

事務局

* 「第 4 章 ネットワーク計画」を説明

委員

様々な団体の中心的な役割として博物館が位置づけされ、ネットワークをつくるというイメージだと思うが、全てのネットワークを一からまとめるのは難しい。すでに活動しているネットワークに入っていく方が有効。既存のネットワークに入っていくイメージはあるか。

事務局

博物館を中心とした繋がりだけではなく、2つ以上の団体を繋げ、

	三角の関係性を作っていくイメージ。既に活動しているグループについて具体的には知らなかった。既存のネットワークがあるならばそのような繋がりも活用していきたい。
事務局	*「第5章 施設整備計画」を説明
委員	諸室について、具体的な面積の記載がない室や内訳のない部門があるが、検討されているのか。
事務局	P41の資料閲覧室は全体160㎡の中に組み込む。P42の利用者サービスの面積の内訳詳細は未定である。
委員	面積未定の機能については、最終的に面積を確保できない可能性があるのか。
事務局	ミュージアムショップなどは現時点で要否や規模が決まっていないため、詳細を記載できない部分がある。
委員	屋外の体験学習スペースは、博物館の基本理念において重要な要素。実現可能なのか。
事務局	基本設計の中で検討する。
委員	体験学習は基本理念の柱の一つに掲げているので、よく検討してほしい。
委員	埋蔵文化財センターの機能を郷土博物館に移すが、移転後の埋蔵文化財センターの将来計画については検討されているのか。
事務局	埋蔵文化財センター設置について条例の定めはない。浸水地域にあるため、この場所での整備は難しいと考えている。
委員	埋蔵文化財は、今後も増加し続ける。増加していく資料の扱いについては検討されているのか。
事務局	P47に示したが、新博物館に埋蔵文化財の収蔵に40㎡程度確保しており、必要収蔵面積分の残り288㎡分については新博物館以外での収蔵を検討している。市立病院が所有している旧東京電力の建物を収蔵先として暫定的に利活用する予定である。ただし、他に利用可能な建物が確保でき次第、収蔵は移設する想定。
委員	子どもたちに大型の民具の展示体験をしてもらうことは有意義であると考えているため、実現してほしい。
事務局	実現できるよう検討していく。
委員	発掘による考古資料は清掃して保管できる状態にする必要があるが、保管までのフローはどのように検討しているか。
事務局	埋蔵文化財センターで行っている発掘後の洗浄・調査を経て、保管できる状態になってから博物館に収蔵する流れを想定している。
委員	市内の小中学生の見学を想定していると思う。多目的室もあるが、雨天時に見学に来た生徒・学生が昼食をとることができる部屋の確保を行った方が良い。現状、その想定はあるか。
事務局	多目的室は学校2クラス分の人数の利用を想定している。飲食スペースについては設計時の検討事項とする。
委員	整理前の考古資料・民具については文化財IPMの観点から、他の資料と厳密に分離する必要がある。清浄な状態にしてから展示室に持ち込む必要があるため、整理作業場所を確保するよう設計し

	<p>てほしい。</p> <p>屋外体験スペースに使用する民具の資料など、外から持ち込む資料は、展示資料と隔離して保管することを徹底すべきである。</p> <p>また、博物館外の収蔵場所には活用頻度の低いものを保管することになると思うが、隙間なく詰め込んで人が立ち入れないような収蔵はしないでほしい。さらに、ラベルや台帳を活用して収蔵庫を整理しなければ、資料を活用することができない。活用されない資料は廃棄につながる恐れがあるので、しっかりと検索・活用しやすい環境を整える必要がある。</p>
事務局	*「第6章 収蔵計画」を説明
委員	<p>温湿度管理が不要とされているレベルA'、B、Cに分類される収蔵品には何が含まれているのか。現在及び将来においても温湿度管理が不要と判断して良いものなのか。また、将来の収集スペースについて今後何年分の想定か。</p>
事務局	<p>温湿度管理が不要な資料は、主に土器・石器・民具・研究資料等である。将来収集する資料の収蔵スペースは、現状面積の3割を想定しているが、具体的に何年先に埋まってしまうのかは検討していない。</p>
委員	<p>整備スケジュール上、順調に進んでも整備は5年後になる。整備期間中にも収蔵品は増え、資料は劣化していくので、そうした点も踏まえて検討してほしい。</p>
委員	<p>資料収蔵のレベル設定区分や計画を明確に策定してから、設計を推進していただきたい。</p>
事務局	<p>今後、学校再編計画が検討される可能性がある。廃校の予定があれば、収蔵機能への転用も含め検討していきたい。</p>
委員	<p>新しい博物館に確保できる面積は明らかになっているが、今後の寄贈資料等も含めた収蔵資料全体の所要面積を把握し、博物館以外にどの程度の面積の確保が必要なのか洗い出すなど、市の収蔵に関する全体像を整理し、現況を踏まえた検討を行ってほしい。</p>
事務局	*「第7章 展示計画」を説明
委員	<p>P56「常に新しい発見」とはどういうことか。</p> <p>また、「郷土愛と宝」の「宝」とは何か？</p>
事務局	<p>「常に新しい発見」とは、特定のテーマについての展示内容を入れ替えたり、更新したりすることを意味している。</p> <p>また、歴史文化・風土・民俗など先祖から守り伝えられてきたものを「宝」と表現している。</p>
委員	<p>祭りやお囃子の展示もあるが、どう祭りを展示するのか。</p> <p>祭りの展示計画の中に20区の各商店街が持っている山車について記載がないため、伝統が無視されているように感じる。このような展示をする予定はあるのか。</p>
事務局	<p>昨年度、市史編纂の冊子を作成し、祭りについて詳しく掲載した。祭りの変遷や山車やお囃子など紹介する切り口は様々ある。山車そのものを展示するのはスペース上難しいと思うが、博物館で学んだ後に街中で山車を見学するなどまちなか周遊を促進しても良いと考えている。</p>
委員	<p>期間限定で博物館の玄関先に置かせてもらうだけでも十分だが、それは難しいのか。</p>

事務局	山車の実物展示は物理的に難しい可能性があるのですが、確約は出来ないが、今後設計者とも相談して進めたいと思う。
委員	祭りの数が多いことも街の特徴であり、祭りやその伝統を誇りに思っている市民が多いため、その要素を含めないと市民に博物館の意義を認めてもらうことは難しいと考えている。
事務局	今回の整備候補地を選定した理由の一つに、歴史文化と融合したまちづくりを意識しており、駅前や浅間神社にも近い中心地に整備することを決めた。 祭りや歴史文化は紹介していくので、具体的な展示手法について今後も検討・協議していく。
委員	山車を博物館に展示しようとする、高さがあるため、山車専用の檣を作るなど難しい点がある。代替案として、市と博物館が協力して回遊性のある山車蔵めぐりを企画したり、駐車場などに山車を一斉に集めるなど、色々な見せ方がある。
委員	山車会館の要望もあったが、計画に至らなかった過去がある。今回の博物館の展示に「宝」というキーワードがあったので、街の宝でもある山車を展示できないかと期待していた。 一斉に駐車場などに山車を集める日があってもよいと思う。
委員	テーマ展示の展示替えペースの検討はあるのか。
事務局	来客の再来ペースや、近隣学校の訪問回数を考慮して、今後検討していく。
委員	展示替えは学芸員の仕事になるので、マンパワーが懸念である。高頻度であればあるほど、過重労働となってしまう。 ギャラリートークのターゲット年齢・運営計画、WEB サイトを含めた博物館情報の発信方法なども要検討事項である。
事務局	現在でも活動や講座を開催しており、今後の学芸員の負担は配慮する。
委員	市民とともにつくる博物館を目指すのであれば、市民によるギャラリートークなども実施してはどうか。他館では、市民がギャラリートークをする場合、座学での勉強と接遇研修を実施し、一定のランク以上に合格した市民のみ、人前で展示解説が可能な仕組みになっているところもある。
委員	テーマ展示のイメージ図に、6地区しか描かれていない。全ての地区を取り上げるなど、丁寧に表現すべきだ。
事務局	次の段階で、展示設計を行う。展示のストーリー性も検討しながら設計を進めたい。
事務局	*「第8章 管理運営計画」を説明
委員	入館料について「企画展示等」とあるが、この中に常設展示は含まれているか。
事務局	常設展示は、有料エリアに含まない想定である。また、企画展のなかでも、他館からの借用資料があるなど、特定の場合のみ有料にするかたちも検討している。
委員	企画展が行われていない時期は全面無料となるため、チケットカウンターが不要になる。チケット購入場所をどこに設けるかなど、様々な状況パターンを設定して検討すべき。 また、学芸員の人員配置についても、教育普及担当と学芸担当の

	役割分担、人数、配置計画なども検討していただきたい。現状の計画では、展示の入れ替えに労力を割かれてしまい、調査研究時間の確保が難しい。
事務局	他館の例も研究しながら、設計の中で確定していく。
委員	ボランティアの管理運営を誰が担うのかを検討された方がよい。
事務局	承知した。
事務局	* 「第9章 事業推進計画」を説明
委員	連絡会議設置は非常に重要だ。地域の方に参画してもらうことも重要。連絡会議をどのような形でおこなっていくのか検討すべき。既存の活動グループとの連携から始めるのが良い。物価上昇に伴う予算の増額は、根拠のある増額なのか。
事務局	他の博物館の事例から㎡単価を算出し、予算金額を試算した。
委員	費用については設計を行わないと分からないので、現時点で具体的に示してしまうと、設計後の金額と大きく乖離する恐れがある。現時点で金額を示すのか、もし示すのであれば、数字は慎重に検討する必要がある。
委員	収蔵資料を守るための温度・湿度管理は重要であるため、しっかり予算を確保していただきたい。
事務局	急務であると認識しているため、対応していく。
事務局	* 「参考資料」を説明
	意見なし
(2) 今後のスケジュール	
事務局	* 「資料2 博物館基本計画策定 今後のスケジュール」を説明